Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE
since 2004
II
UNIVERSITY
2021.4-2028.3

令和５年度　事業計画書

（令和５年４月１日～令和６年３月31日）

学校法人 九州国際大学

（令和５年３月23日 理事会）

― 目　次 ―

Ⅰ. 基本方針 1

Ⅱ. 事業計画

［学校法人］

1．人事関係 3
2．施設拡充関係 4
3．社会貢献 6
4．財務関係 6
5．中長期計画 6
6．情報公開 7

［九州国際大学］

1．教育概要 8
2．教育支援 9
3．学生支援 12
4．就職支援 14
5．学生募集 15
6．研修事業 15
7．地域連携･地域貢献 16
8．国際交流 18

［九州国際大学付属高等学校］

1．教育概要 19
2．クラス編成 20
3．進路サポート体制 21

［九州国際大学付属中学校］

1．教育概要 25
2．教科目標 26
3．教育設計 27

Ⅲ. 令和5年度予算概要 31

1．教育活動収支 32
2．教育活動外収支 33
3．特別収支 33

事業計画の公表にあたって

学校法人を取り巻く環境は、加速度的に進む少子化によってますます厳しい状況を迎えます。また、現代社会は非常に不安定な時代に突入し、不確実な世の中を生きる上で必要な人材（スキル）が求められています。学校法人九州国際大学は北九州地域に立脚した教育機関として、国際化、情報化、科学技術の発展及び環境の問題などの社会変化を踏まえた教育の在り方を探求し、先行き不透明な時代を生き抜く力を育むことを使命として地域に必要とされる学園づくりに邁進してまいります。

その上で、本法人の使命を果たしていくためには、これまで以上に強固なガバナンス体制を構築し、内部統制システムのさらなる強化を図っていくことが重要であると考えております。そこで最も必要とされるのがコミュニケーションです。教職員が共通の目的意識を持ち、学園の内外に向けたメッセージを発信し、学生生徒・保護者・地域社会の皆様との良好な関係が構築できるようコミュニケーションの促進を図ってまいります。同時に、教職員間の情報共有を支援し、ビジョンやポリシーの共有を基軸とした中長期計画を推進していきます。これこそが、学園の発展に最も重要なことであると確信しております。

学校法人九州国際大学が社会から信頼され、選ばれ続ける学園であるために、建学の精神に掲げる「塾的精神」のもと、社会に貢献できる質の高い教育研究機関を目指し、実社会を支える有能な人材育成を目標として、本法人の持続的発展に向けて「守る経営」から「攻めの経営」へと転換するための組織文化の醸成に向けて鋭意取り組んでまいります。関係各位には一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

学校法人 九州国際大学
理事長　權 堂　健 司

Ⅰ．基本方針

［学校法人］

学校法人九州国際大学の創立は昭和 22 年です。以来、“北九州地域の文化向上を目的とし、塾的精神により知識を授けるとともに、誠実有為なる人材を養成する”という建学の精神は今日まで脈々と受け継がれてきています。

本学園の使命・役割は、今日の私立学校を取巻く環境がますます厳しいものへと変化していく中で、地域に立脚し地域に有為なる最高学府を擁する教育機関として、今一度、本学園の原点である建学の精神に立ち返り、余すところなくその精神を汲み現代的変容の中にも先取りの精神をもって常に次世代を見据えつつ、その本分を如何なく発揮していくことにあります。その上で、本学園で働く教職員全員が本学園の新しい教育・経営ビジョンの実現を目指して、実践活動を行うための指針として『学校法人九州国際大学 第三期中期経営計画（2019 年度～2023 年度：5 カ年計画)』を策定しております。

第三期中期経営計画は、設置する学校の教育及び経営活動に関する自己点検・自己評価等による課題の認識やその解決に向けた展望を踏まえたものです。経営理念に基づく、後述の各戦略それぞれについて目標を設定し、目標の可視化を実施するとともに、毎年度末に各目標の達成状況を確認していきます。

このことにより、次なる業務の行動目標を明確に定め、目標達成に向けた組織的対応を実施するよう業務の工程管理（マネジメント）を適切に実施していきます。

戦略Ⅰ	［教育力］：地域に根ざし、地域に必要とされる教育の実践
戦略Ⅱ	［研究力］：地域課題に基づく研究活動の実施
戦略Ⅲ	［社会力］：教職員人材等の地域活動への参加
戦略Ⅳ	［募集力］：本気で学ぶ生徒・学生の獲得を目指した定員充足率の向上
戦略Ⅴ	［経営力］：経営効率化、組織活性化による財政基盤の安定と計画の実行

今後の経営計画の実行にあたっては、財務的な裏付けによる経営資源の選択と集中を図り、組織の構成員である教職員が一体となって改革に取り組んでまいります。特に、学校教育の根幹である教職員の育成に努めることはもとより、本格的な私立学校経営の実践とその進捗の管理に取り組んでいきます。

［大学･大学院］

九州国際大学では、建学の精神に掲げる「塾的精神」によって互いに切磋琢磨して精神を鍛え、社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいます。

本学の使命・目的及び教育目的を達成するために、法学部法律学科、現代ビジネス学部地域経済学科・国際社会学科及び大学院法学研究科を設置し、それぞれの専門領域等に応じた教育研究活動を行っています。

大学部門では、教育研究活動及び地域貢献活動に基づく「教育の質の向上」、「出口の成果が入口の水準向上に繋がる好循環の創出」に向け、“地域に根ざした教育重視の大学”を中期目標に掲げ、教職員が一体となって人材育成に取組み、卒業後は自立した職業人・社会人として活躍できるよう「就業力」、「学士力」を育んでまいります。

［中学校・高等学校］

付属中学校・付属高等学校は、高等学校の「共学化」という大きな改革を実施して以降、県下トップの志願者を獲得するなど、北九州地域から注目を集めています。今後も、教職員・生徒の力を結集し、「独自性のある」、「活力のある」学校づくりに一層取り組んでまいります。

本校の価値は「授業」であり、それを行う「教師」にあると考えております。授業アンケートや職員研修会を通じて教師力の向上を追及し、「わかりやすい授業」を提供していきます。

今後は、学校評価への取り組みを通じて“地域ナンバーワンの私学”を目指した改革を実践します。

Ⅱ. 事業計画

[学校法人]

1. 人事関係

(1) 人事制度改革

人材育成を強化する目的で事務職員の新人事制度を施行し段階的に運用を開始します。これまでの年功的な職階的階層制度を見直し、法人が事務職員に期待する職務遂行能力を系統的に分類整理し、その職能の発展段階に応じて定められた等級に格付けするとともに、明示された役割や職務の遂行結果を公正に評価することで納得性の高い処遇の決定を実現し、動機付けや育成を図る制度となっています。

同時に、事業規模に見合った事務組織の人員適正化や年齢構成の段階的是正を念頭に置き、「即戦力となる人材の中途採用」等により人材の確保に努めます。

(2) 働き方改革への取組み

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律（平成 30 年 7 月公布)」に基づき、勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方に向けて、昨年導入した勤怠管理システムを活用し労働環境の実態把握に努めます。併せて学校及び教育職員が担う業務の在り方を見直し、長時間労働の是正に取り組みます。

(3) 職場環境の安全・衛生保持

労働安全衛生法に基づき、本学園の職員の安全及び衛生に関する事項について、各事業場（平野キャンパス・枝光キャンパス）で安全衛生委員会を開催し、「職員の健康保持増進」、「安全な職場環境の保持・改善」、「労働災害の防止」等について継続的に検討を行っています。職員の健康保持については、健康診断及びストレスチェックの結果等に基づき、産業医との連携を図りながら、当該職員の実情を考慮したうえで、必要な措置を講じていきます。

＜重点項目＞

① 就職支援サイトの活用によるインタラクティブな採用活動
② 複線型キャリアコースへの移行に向けた役職者の自己申告書提出及び人事面談の実施
③ 人事考課の評価結果に基づく処遇への移行に向けた考課者研修の実施
④ 職場環境の維持向上に向けた安全衛生委員会運営
⑤ 勤怠管理システムの活用による労働時間の適切な管理

(4)教職員向け ICT 教育の推進

令和 4 年度は、「ICT スキル確認テスト」を実施して教職員の ICT 理解度を個別に把握した後、理解度に応じた難易度別の「Word・Excel 等活用講座」を実施、さらに、Teams によるオンライン配信や録画配信を提供することで、業務の都合により対面受講が困難な教職員への研修参加を促進しました。

令和 5 年度も同様の実施手順を踏襲し、前年度の実施結果のフィードバックを踏まえ、業務アプリの基礎的学習のみならず、データ分析、情報検索、さらには ICT 系資格試験へのチャレンジなど、高度な活用スキルの習得も視野に入れ、着実なスキル向上を目指します。

2. 施設拡充関係

施設設備等の保全・整備については、法令順守や学生生徒の安心安全を確保するものを最優先として実施します。その上で、第三期中期経営計画の最終年度であることを踏まえ、質の高い教育研究環境の確保に向けた機能向上はもちろん、施設の劣化・損傷に対応する修繕、設備機器の点検保守をはじめとした保全計画の策定に努め、整備・保全費用の平準化に向けたファシリティ・マネジメントを強化します（重点項目及び主な事業は以下のとおり）。

＜重点項目＞

① 学生・生徒の快適な学習環境の維持・向上にむけて平野・枝光の両キャンパスにおける空調設備や受電設備の保全工事を実施します。

② 老朽化が顕著な平野キャンパス内の電話交換機取替工事を実施し、通信設備の安定を図ります。

③ 大学の学生食堂をリニューアルし、キャンパス内での飲食を支援すると同時に、学生が集える場所として環境づくりに貢献します。

(1) 機器・備品整備関係（主な事業）

部門	設置場所	件　名
平野キャンパス（大学）	研究棟ホール	AED
	研究棟共同研究室	複合機
	平野記念館アリーナ	バドミントン・ソフトバレー兼用支柱等
	３号館キャリア支援室	応接セット
	メディアセンター教室	プロジェクター
	KIU ホール食堂	食堂設備（券売機等）
枝光キャンパス（高等学校）	第１体育館	AED
	第２体育館	ウォータークーラー
	第２体育館	製氷機
	B 棟 保健室	デジタル体重計
	C 棟 調理教室	生徒用丸椅子
	B 棟 職員室	教員用椅子
枝光キャンパス（中学校）	A 棟 教室	生徒用机・椅子セット
	共用棟 視聴覚教室	操作卓一式
	共用棟 音楽室	譜面台

(2) 施設整備関係（主な事業）

部門	設置場所	件　名
平野キャンパス（大学）	メディアセンターカフェ	空調取替工事
	平野キャンパス内	電話交換機取替工事
	１号館・２号館	受電設備盤（VCB）改修工事
	１号館	少量危険物タンク設置工事
	学生専用駐車場	アスファルト部分舗装工事

	２号館～研究棟	高圧ケーブル取替工事
枝光キャンパス （高等学校） （中学校）	D 棟	吸収式冷温水機取替工事
	第１グラウンド	テニスコート人工芝貼替工事
	第１グラウンド	照明追加工事
	枝光キャンパス菜園	駐車場整備工事
	第２体育館	庇新設工事
	第２体育館・第３体育館	トイレ改修工事
	共用棟家庭科室･小会議室	空調取替工事
	共用棟　２階	分電盤・絶縁改修工事
	３号館（F 棟）	外壁補修工事

⑶ 情報政策関係

① 大学の授業における ICT 教育設備の活用促進

文科省の推進する GIGA スクール構想により、中等教育までに ICT 活用授業を経験した生徒を大学が受け入れるフェーズとなっています。本学においてもその流れをシームレスに受け継ぎ、ICT 機器やサービスを有益に使いこなすスキルを身に着けた、現代社会の要請に即応できる人材を育成する必要があります。

その体制づくりとして、大学入学生にモバイル PC（ノートパソコン、タブレット PC 等）の必携化が開始されました。キャンパスライフの中で日常的に ICT を活用することは情報リテラシーの涵養に繋がり、VUCA の時代においても柔軟性に富む人材を育成する足掛かりとなります。

大学の教育設備においては、すでに全教室に Wi-Fi（無線 LAN）を整備しているほか、ゼミ教室を中心に可動式の電子黒板を設置し、インタラクティブな授業が可能となっています。令和５年度はこれらの活用段階を一層深め､既存のオンライン教育システム｢KIU ポータル｣の授業支援機能をフル活用しつつ講義でのノート PC 活用機会を増やすと共に、それら ICT 機器やシステムの使用を前提とした授業計画の実施に向け、学部・教務部門と連携しながら講義の品質向上を目指します。

② ペーパーレス化推進への取り組み

本学は、令和３年度に北九州 SDGs 登録制度の第１次登録事業者として登録、さらに令和４年度にも福岡県 SDGs 登録制度の第１次登録事業者として登録されるなど、環境問題に高い意識を持って取り組んでいます。

特にペーパーレスというテーマにおいては ICT の活用が重要となるため、Teams 等オンラインツールの利用による会議資料や回覧資料の削減・廃止、提出書類の押印廃止による電子化など、様々なシーンにおいてペーパーレス化の可能性を模索しています。令和５年度も引き続きその取り組みを継続・拡大し、紙に依存しない業務への改革を進めていきます。

③ Microsoft 365 上位プランの導入

本学では、かねてより総合クラウドサービスとしてマイクロソフト社の「Office 365

Education A1」を採用し教育・業務に活用していますが、令和 5 年度から上位のサブスクリプションプランである「Microsoft 365 Education A5」に更新します。

これにより、学内で使用している Windows、MS-Office のライセンス契約を統括整理し長期的なコスト削減を図ると共に、在学生は各自所有のノートパソコン等に Office スイート（ワード、エクセル、パワーポイント等のオフィスソフトウェア群）の最新版をインストール可能となりますので、これまでのオンライン（Web ブラウザ）版オフィスに比べて機能や使い勝手が大幅に向上し、より充実した ICT 活用環境を提供できるようになります。

また、クラウドプラットフォームサービス「Azure」を活用し、サーバのクラウド化を推進することで、オンプレミス（自社保有）機器の廃止による運用コスト削減を図りつつ、ゼロトラストセキュリティによる柔軟性の高い認証システムを導入し、より安全で柔軟性の高い ICT 環境を利用者に提供します。

さらには、BCP（事業継続性）及びディザスタ・リカバリ（災害からの復旧）の観点においても堅牢性・冗長性が向上し、本学園の情報資産を脅威から保護することが可能となります。

3. 社会貢献関係

本法人が「北九州 SDGs 登録制度」及び「福岡県 SDGs 登録制度」の第一次登録事業者であることを受けて、SDGs の達成に向けた活動を実施しています。

地域密着型の総合学園として、その特色を活かし、地域をフィールドとした調査・研究・学修等の諸活動を通じて、地域との連携を深め、地域に必要とされる学園となるために、教職員・学生・生徒が一丸となって活動を加速いたします。

4. 財務関係

令和 5 年度予算は、一般経費と特別経費に区分し、一般経費に関しては、事業計画の実効性に重点を置いて編成しています。特別経費に関しては、建物・構築物・修繕工事・備品等の固定資産取得及び大規模修繕事業に関して事業の優先度を勘案し予算化しています。

これらの状況を踏まえ、適正な予算執行を促すため予算説明会等を開催し、事業着手前の予算措置や規程を遵守した経理手続きに関して啓蒙すると同時に、本学園のさらなる財務基盤の強化に必要な検討課題に対して、様々な視点から提言を行ってまいります。

＜重点項目＞

① 事業活動収支における経常収支差額及び基本金組入前当年度収支差額の均衡
② 減価償却引当特定資産への継続的な積立
③ 日本私立学校振興・共済事業団 経営状況判定表における正常状態維持（指標：A3）

5. 中長期計画関係

『第三期中期経営計画（2019～2023：5 ヶ年)』に掲げた計画を具体化するため、過去に実施した進捗状況の確認内容を踏まえ、最終年度の取組みを加速します。

特に、経営課題として重要なキャンパスマネジメント計画の策定を具体化するため、平野・枝光両キャンパスの将来像について、経営的視点及び教育的視点に立った検討を継続し、次期中期経営計画に継承します。それぞれのキャンパスにおける課題を把握し、原則、保有資産について

は長寿命化を図りつつ現代ニーズに即したリノベーション計画などを検討します。

6. 情報公開

私立学校法第 47 条及び私立学校法の一部を改正する法律（平成 16 年法律第 42 号）等の法令に基づき、財務情報・教育研究活動等の情報をホームページ等で積極的に公表していきます。このほか、「学園情報誌（キュウトビ）」等を発刊し、本学園の取り組みや財務情報、学生活動を紹介するなど、広く情報提供するとともに「大学ポートレート（私学版）」へ情報公表についても、必要に応じてメンテナンスを実施していきます。

［九州国際大学］

1. 教育概要

本学は、「教育理念」を次のとおり定めており、地域社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

＜教育理念＞

(1) 本学は、建学の精神に掲げられた「塾的精神」に基づいた教育を実践する。塾的精神の要は、人格を介した信頼関係にあり、教員、学生、職員相互の信頼関係の土台の上に、一人ひとりを大きく育てる教育を行う。

(2) 本学は、地域社会及び国際社会で信頼される品性高き人材の育成を目標とする。北九州に根ざし、多様な価値観が存在する国際社会に対する理解力を高め、地球の未来を見据えつつ、学ぶ姿勢を生涯貫く人材を育成する。

(3) 本学は、基礎的能力を備え、理論・実践両面に明るい人材を育成する。社会を透視できる理論の学習と共に、演習・実習を積極的に行い、人間社会と自然環境に共感し、能動的な働きかけができる人材の育成に力を注ぐ。

(1) 法学部 / 法律学科

法学部は、法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させ、もって理論実践両面に明るい人材を養成します。法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させるとともに、フィールドワークを通じて実践力を獲得させ、もって地域の行政・企業分野において実務を遂行できる人材、及び企業活動に積極的に関与できる法律のプロフェッショナルを養成するため、２つのコースを設置しています。

［法律学科］

◆ リスクマネジメントコース －警察官や消防官など公務員を目指す－

◆ キャリアコース －組織運営のスペシャリストを目指す－

(2) 現代ビジネス学部 / 地域経済学科・国際社会学科

現代ビジネス学部は、21世紀の社会を展望し、グローバル化の進む世界や地域のビジネス組織、すなわち企業、自治体、民間団体などで活躍できる豊かな教養と知識を有する人材を養成します。

現代ビジネス学部地域経済学科は、経済学や経営学に関する基本的な知識を身につけ、企業や地域の組織体での就労を通して産業や地域社会に貢献する中堅的な人材を養成するため、５つのコースを設置しています。

［地域経済学科］

◆ 経済コース －経済の知識をもとに地域貢献できる人材を育てる－

◆ 経営コース －ビジネスリーダーとして地域に貢献する人材を育てる－

◆ 地域づくりコース －地域づくりのマネジメントに精通した人材を育てる－

◆ 観光ビジネスコース －観光を切り口に地域貢献できる人材を育てる－

◆ スポーツマネジメントコース －スポーツを通して地域の発展に寄与する人材を育てる－

現代ビジネス学部国際社会学科は、異文化理解や国際協力に関する知識を身につけ、現代社会のグローバルな変化に対応できる能力を養い、国際社会だけでなく地域社会でも活躍する人材を養成するため、３つのコースを設置しています。

［国際社会学科］

◆ 英語コース　－国際理解に明るく、高度な英語力を備えた人材を育てる－

◆ ハングルコース －韓国を理解し、日韓の橋渡しとなる人材を育てる－

◆ 国際コース －現代の多言語・多文化社会で活躍する人材を育てる－

⑶ 大学院 ／ 法学研究科

大学院修士課程は、高度専門職業人の養成を目的としての知識と専門性を高めていきます。

法学研究科では、企業や行政の現場で発生する様々な問題を解決するための法知識の習得を目指します。

2. 教育支援

⑴ 学士課程教育の体系化

ディプロマ・ポリシーと各科目到達目標との関連性、学習内容の順次性、科目間の内容の関連性、必修・選択科目の区分など、多様な要素を表現した「カリキュラムマップ」、「カリキュラムツリー」、「ナンバリング」を作成していきます。教え手である教職員と学び手である学生の双方が、「見える化」されたカリキュラムを共有することにより、学生が 4 年間で学ぶ道のりを俯瞰できるよう継続的に取り組んでいきます。

また、学部・学科の人材養成の目的に基づき、教育の質保証と学生本位の教育（何を学び、身に付けることができたのか）の実現を図るため、単位の実質化、厳格な成績評価を実施し、「ルーブリック」を活用し、学修成果の把握・可視化に努めていきます。

⑵ 初年次教育

学生の主体的な学びを促進し、学士力を備えた学生を社会に送り出すために、学生一人ひとりを大きく育てる教育に取り組んでいます。授業科目の共通教育科目の基礎科目に「入門セミナー１・２（必修科目）」、「アカデミックスキル（思考）・（表現）（準必修科目）」を配置し、大学で学ぶために必要となる読解力や論理的思考力等の基礎的な学修スキルや問題発見・解決能力やコミュニケーション能力等の社会人基礎力を身につけていきます。特に「入門セミナー１・２」は、大学における人間関係や居場所の構築のための役割も果たしています。

また、初年次教育の一環として、新入生研修（FM：フレッシャーズ・ミーティング）、体験型学習（フィールドワーク）、学生に応じた目的達成支援（PASS：Project of Achievement Support for Students）を実施し、基礎学力や目的・職業意識の醸成に寄与していきます。

⑶ 学生ポートフォリオによる学修成果把握

学生が、学生生活の自己管理のために授業での学習成果を振り返り、“学んだこと”、“気づいたこと”、“知り得たこと”を「学生ポートフォリオ（Assessmentor：アセスメンター）」に記録

します。その記録をもとに、ゼミ担当教員及び職員がアドバイス（記録）を行います。このようなインタラクティブ（双方向）な活動を継続的に実施し、具体的に“どのような力が身についたのか”、“どの力がどの程度向上したのか”、学生自身が視覚的に把握することで、さらなる成長を促すよう取り組んでまいります。

また、「アセスメンター」だけではなく、学生の学習達成度を数値化・可視化する仕組みの「ディプロマサプリメント（卒業時達成度の記録、及び自己成長の推移）」の構築を目指していきます。

(4) 資格取得支援

現代ビジネス学部国際社会学科の学生を対象に、大学から TOEIC Listening & Reading の公開テスト団体一括受験申込を行い、年1回無料でTOEICを受験できるよう支援しています。大学の評価だけではなく、公的な試験で英語力が認識できるよう取り組みます。その他、各種資格取得を促進する目的で受験料等の補助を実施いたします。

(5) PROG テスト（外部評価試験）の導入

社会人として活躍できる能力「ジェネリックスキル（汎用的な技能）」を測定する PROG テストを全学部に導入しています。PROG テストは、基礎力を「リテラシー(注1)」と「コンピテンシー(注2)」の 2 つの側面から測定するテストです。この PROG テストの結果を参考に、学生個別の力を把握しながら学生の指導に役立てていきます。

（注1）「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養をみるものです。
（注2）「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるものです。

(6) 実践型教育の推進

実社会と協働した実践型教育を行い、社会人に不可欠なソーシャルスキルが身につくだけでなく、自ら体験することで知識を学ぶ必要性を実感でき、学びのモチベーションアップにも繋げていきます。学生が能動的に学ぶ学習法としてアクティブ・ラーニング(注3)を推進し、教育の充実を目指します。

また、社会実習、地域連携活動や海外での体験的な学習機会を設けるために、海外提携校での語学実習、外国事情研修、国内外でのボランティア活動や企業実習等を開講します。

（注3）教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法です。

(7) 大学コンソーシアム関門事業への参画

本学は、「関門地域の高等教育の充実及び発展を図るとともに、高等教育機関が地域社会へ貢献すること」を目的として結成された大学コンソーシアム関門に参画し、教養教育を共同で実施しています。当該コンソーシアムでは、関門地域（北九州市及び下関市）の高等教育機関が相互に連携・協力して各種講義科目講座を提供しており、毎年、本学教員の講義科目は講座を提供しています。

また、大学間で単位互換協定を締結しているため、当該コンソーシアムで受講した科目の修得単位は、本学で認定しています。

(8) 教育支援体制

基礎教育センターでは、基礎学力支援並びに各部署との連携・業務支援等を目的とし、学生の成長に寄与できるよう様々な指導・講座・教育・相談等を実施します。

① 個別指導･グループ指導

就職試験における一次試験に突破すべく基礎学力を身につけるため、各科目の学力を支援します。また、個別目標としての検定試験を活用し合格できる力も養成、併せて、通常講義の理解度を増すための授業支援を実施します。

科　目	国語、英語、社会、数学、各授業科目
方　法	1 コマ 45 分、要予約（所員対応）・予約不要（教員及び SA 対応）、一人ひとりに合わせたスタイルで自信を持たせる。
指導者	教員及び SA（学生 8 名）

② 学内講座

必要に応じて、基礎的な講座からイベント性のある講座を開講し学生の学修意欲の喚起に役立てます。

種　類	統計検定講座、宅建講座、経営学検定、簿記検定講座、ワークルール講座など
方　法	それぞれの企画・運営は基礎教育センター所員が行い、学内掲示やホームページなどを通じて公募し、教員による指導を実施する（原則として 5 名以上で開講）。

③ 入学前教育

教育の質的保証を確保するメニューの一つとして、入学手続完了者に対し「基礎学力」を補う目的で入学前教育プログラムを実施します。e ラーニング教材による基礎学力ドリル（キゥゥドリル(注 5)）を導入しており、入学前から 1 年生段階での初年次教育のツールとして活用することで、より効果的な教育支援を実施していきます。また、スクーリングを実施し、大学での学び体験や仲間づくり、キゥゥドリルの継続的実施を促進します。

（注 5）「キゥゥドリル」とは、国語、社会、数学、英語の 5 教科の基礎・基本を効率よく学び直すことができる学修教材です。キゥゥドリルには「キゥゥドリルⅠ」、「キゥゥドリルⅡ」の 2 つのコースがあります。大学の授業を理解するために必要な基礎学力や、資格試験や就職試験の対応力を身につけることができます。

科　目	国語、社会、英語、数学、理科、スクーリング（2 月中旬 1 回）
方　法	入学手続完了者全員に対し、キゥゥドリル「ベーシック」に取り組んでいただき、取組状況をモニタリングするとともに受講促進する。実施後、満足度アンケートにより当該年度の振り返りを行う。

④ 初年次教育としてのキゥゥドリル

入学前教育から引き続き、入学後 1 年間、キゥゥドリル（スタンダード）に取組みます。入門セミナーや教養科目での利用を奨励し、学生が自身の基礎学力向上のために主体的に取り組むよう指導します。

科　目	国語、社会、英語、数学、理科
方　法	入門セミナー担当者から、ドリル全体の利用について学生に促す。英語 1AB・2AB は英語、アカデミックスキルは国語、数学は数学、経済学は社会など、教養科目でもドリル使用を奨励していく。

⑤ ピア・ラーニング（SA による対応）

「上級学生が下級学生に教える」ことで、教える側の知識定着と深い理解を促すと同時に、論理的に説明する力を養成します。

科　目	教科（国語･英語･数学･社会･日本語）及び授業科目並びに統計検定、宅建など
方　法	45 分 1 コマとし、週 1～2 コマ以上実施する。

⑥ 学修生活相談

学生の大学生活や学修方法の不安を解消し、個別指導によりあるべき方向へ導くことを目的として相談窓口を設けています。また、学生の 4 年間を見守るためのシステムとして、各学部の教員を支援する役割を担っています。

事業内容	担任・副担任との協働や他部署との連携を図り、全学生対象に個別指導等を行う（予約不要）。
方　法	学修生活アドバイザーが担当（兼務）し、個別指導を行う。

⑦ その他

事業内容	① 学長裁量経費等を活用した事業の企画・実施（FD・SD 研修） ② プレスメントテストの実施 ③ 3 大学基礎教育センターとの学術交流会議（情報収集） ④ 退学防止プログラム策定（他大学・研究機関の視察、研修等参加）

(9) 学長裁量経費支援

教学課題の解決や文部科学省の高等教育施策の動向を踏まえた課題等に関する全学的な取組みを支援する目的で学長裁量経費を設けています。複数学部・学科等による横断的な取組みや、各学部・学科等における教育改革・教育改善に向けた意欲的な取組で全学的な波及効果が期待できる取組みを選定し、そのためのスタートアップとして支援します。

3. 学生支援

(1) 課外活動の活性化

四協団体（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）との連携を図り、新入生オリエンテーションの場を活用して各団体の活動紹介を実施し、体育系サークルや文化系サークルへの入部を促します（目標：サークル加入率 50%）。

また、大学スポーツの振興を目的とした 一般社団法人大学スポーツ協会「UNIVAS (注 6)」の趣旨に賛同し、その設立背景にある社会的意義を適切に解釈しつつ、体育系サークル活動の支援に取り組んでまいります。これらの取組みの一環として、体育系サークルの指導者、顧問に対する研修会、学生への活動についてのアンケート等を実施し、学生生活の充実と問題対策・

予防に努め、サークル活動の活性化を目指します（目標：研修会開催 1 回/年、アンケート実施 1 回/年）。

（注6）UNIVAS（Japan Association for University Athletics and Sport）
日本版NCAA設立準備委員会にて、検討を重ねて参りました大学スポーツに係る大学横断的かつ競技横断的統括組織「一般社団法人 大学スポーツ協会」（通称UNIVAS）が、平成31年3月1日に設立されました。

⑵ 大学祭（橘祭）の活動支援

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針に基づく行動制限が緩和されるなか、学生及び地域の方の積極的な参加を念頭に置いた大学祭企画を計画し、イベントの成功に向け導いていきます。

⑶ 学生自治会（四協団体）活動支援

サークル並びに四協団体の活性化と同時に、これら団体の管理運営（イベント運営、事務手続、会計処理等）についても教職員が積極的に支援し、自治指導及びトラブル防止に努めていくことで健全かつ活気ある学園づくりを目指します。

体育会本部では、「多目的グラウンド（**KIU Field**）」や「体育館アリーナ（**KIU DOME**）」を活用した学長杯スポーツ大会などを企画・開催し、学生の課外活動を積極的に支援します。

⑷ 学生との交流支援とメンタルヘルス支援

やわらかカフェの認知向上・利用促進に努めます。その上で、学生同士の交流の活発化、メンタルヘルス支援等を目的として保健室と連携を図り、様々な企画を提案します（目標：イベント開催 2 回/年）。

⑸ 学生のニーズ調査

学生満足度を向上させることを目的として、学生自治会主催の連絡協議会（春学期：1 回、秋学期：1 回、計 2 回）を開催し、四協学生（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）の代表との意見交換を通じて学生のニーズなどを聴取します。

四協学生を中心とした学生団体と大学執行部との学長懇談会を年に 2 回開催し、課外活動の報告、大学への要望等について直接対話する機会を設けて、改善を図ります。

また、学生生活満足度アンケートを実施し、学生のニーズの把握に努めます。アンケート結果は情報公開するとともに、大学に対する要望等を一つひとつ実現することで学生の満足度向上を目指します。

⑹ 保護者連絡会の実施

学生の出席状況や学生生活の実態を把握し、成績不振等を解消するために相談会を実施します。大学側と学生・保護者を交えて質問や相談に応じます。また、これらの相談会以外に就職関連の講演会などを開催することで保護者に必要な情報を提供していきます。

⑺ KIU ホール学生食堂のリニューアル

九州国際大学 KIU ホール学生食堂をリニューアルし、新たなサービスを展開いたします。

学生食堂の中でも人気の高いメニューを多数取り揃え、毎日足を運びたくなる環境づくりを目指します。

4. 就職支援

(1) キャリア形成支援プログラム「KIU－SPICE（スパイス）」

KIU－SPICE（Kyushu International University Support Program In Career Education の略称）は、本学の教育理念である「理論と実践両面に明るい人材養成」をキャリア形成において具体化を図り、大学入学からの 4 年間を通じ、社会人基礎力、人間力、就職力を身に付けるための正課授業によるキャリア教育と、学生に自己理解・自己発見の機会と知的刺激を授けるための各種就職支援講座とインターンシップ等により構成されるキャリアサポートを統合して展開する体系化されたキャリア形成支援プログラムです。本取組みは、学生の多様化が進む中で、大学教育の質的保証を図り、学生の主体的人格形成による学士力の確保を目的に、持続的・発展的に取り組んでいきます。このように、年々変化を続ける就職環境と地元企業への就職促進に向けて KIU－SPICE はアップデートしてまいります。

(2) 正課授業によるキャリア支援

「KIU－SPICE」を基軸としつつ、正課授業のキャリア教育科目を就職環境に即した内容へと発展させ、正課授業（「キャリアデザイン」、「キャリアプラン」、「キャリアプラン実践」）の科目の中で体系的に業界研究や自己分析、履歴書及び面接指導等を取り入れ、就職活動に直結する教育活動を実践します。また、就職活動を取り巻く環境が地元志向へとシフトしている昨今の状況を踏まえ、キャリアプラン実践科目に地元企業の採用担当者をお招きし、地元産業界の構造や特色について、それぞれの業界の視点から紹介します。さらに、就職支援業務のオンライン化にもいち早く対応し、今後も益々、就職支援オンラインイベントや動画コンテンツの拡充に向けた取り組んでいきます。

(3) インターンシップ

本学のインターンシッププログラムは、入社後のミスマッチ抑制を目指した職場体験型を原則としており、低学年から職業観を醸成する役割を担っています。そして、実践的なキャリア科目へと段階的に繋げるため、今後も北九州商工会議所との連携を強め、受け入れ企業の拡充も図ります。

(4) 保護者との連携による就職支援

教職員と保護者が本学の求人情報をリアルタイムで閲覧することができるシステムとして、求人検索 NAVI システム「就職支援 NAVI システム」は、大学生だけでなく教職員や保護者の情報ツールとしても役立てられています。

また、保護者を対象とした、就職支援事業を紹介する動画を作成し、本学卒業生の就職状況、本学で実施している支援内容、「就職支援 NAVI システム」の紹介および使用方法、等本学の取り組みを広く周知します。

⑸ 公務員支援システム（エクステンションセンターによるキャリア支援）

令和 5 年度は、エクステンションセンターにおいて公務員試験受験対策講座に特化した内容を予定しており、講師には、専門学校講師や実務担当者を中心としたエキスパートを起用し、適切な受験技術や指導法による高い合格率の実現を目指します。また受講生のみならず全学年を対象にしたサポートデスクの設置により進路相談や模擬面接また添削指導など、公務員と就職の両面から支援していきます。安価な料金設定のうえ、講義時間数も多く、大学に通いながら資格を取得できるばかりか、そのことが同時に就職活動でのアピールにもなります。さらに、目的意識の高い学生同士が一緒に学ぶことで相互に刺激を受け、必然的にやる気を起こさせる相乗効果も期待しています。

5. 学生募集

⑴ 媒体を活用した広報

進学ガイダンスや高校訪問等で直接的に対話できない方に向けて、Web 広告を活用した直接的アプローチを強化します。同時に、CM や駅広告による本学の存在意義をアピールしていきます。

⑵ オープンキャンパス

学部の講義からキャンパスライフまで、九国大をまるごと体験できるイベントを企画し、大規模な夏のオープンキャンパスをはじめ小規模な大学見学会など、個別ニーズに対応できるよう活動を展開していきます。

⑶ 進学説明会

本学の特色、入試制度の変更点及び Web 出願などを中心に、北九州地区及び福岡地区で単独説明会を展開します。また、業者企画による進学説明会についても積極的に参加し PR いたします。

⑷ 高校訪問

本学の基本情報、在学生情報及び就職実績等を定期的に情報提供し、低学年のオープンキャンパスへの参加や受験促進に向けて、高校訪問を展開していきます。

6. 研修事業

学校法人九州国際大学職員研修規程に基づき、教職員の能力開発及び資質の向上を目的として恒常的に研修等を実施しています。FD（ファカルティディベロップメント）・SD（スタッフディベロップメント）活動の目的は、教職員の職能開発であることはもとより、教育の質保証に不可欠な活動になります。これら研修では、教学マネジメント指針に基づく学習者本位の教育の実現を図るため、大学運営を支える基盤として大学の教育理念や 3 つのポリシー（DP:卒業認定・学位授与の方針、CP:教育課程の編成方針と教育方針、AP:入学者受入れ方針）の見直しのための研修、高等教育施策に関する講演会、さらには事務職員の階層別研修など、全教職員を対

象として定期的に展開していきます。

7. 地域連携・地域貢献

(1) 地域連携推進助成事業

地域連携センターでは、本学の有する学術的な蓄積（人的資源・知的資産）や教職員・学生等の力を活用して、地域づくりに取り組んでいる団体を支援することを目的とした地域連携推進事業を実施しており、本年度は採択事業 10 件を活動指標として取り組みます。

(2) 地域課題解決型研究活動の推進

SDGS を踏まえた地域課題解決を視野に入れた研究（目標：3 テーマ）に取り組みます。その研究成果は、生涯学習講座で発表するとともに、ホームページや調査研究活動報告書で公表します。

(3) JICA 九州との連携事業

JICA 九州と本学の連携覚書協定に伴う連携事業として、国際通り英語プロジェクト（仮称）を始動し、周辺小中学校（花尾小・花尾中）との交流や地域を引き入れたイベント（桜まつり・ハロウィン・クリスマス）等を開催して、本学及び JICA 九州並びに地域の方々との三者協働による地域の活性化に向けた取り組みを実施し、地域から評価される学園づくりを実現していきます。

(4) 九州国際大学「市民講座・市民相談」の開催

地域連携センターと九州国際大学同窓会橘会との共催事業として「市民講座・市民相談」を開催しています。日常生活に関連して発生する法的な諸問題について講義を行い、その後に相談窓口となって市民相談に応じます。また、自営業者に向けたプログラムを組み込むとともに、学生の実践教育の場としても位置づけています。日程は、前・後期各 10 回の開催で、毎月第 2・第 4 土曜日に実施します。リピーターが多いこともあり、地域貢献の実質化の観点から新規参加者 7 割確保を目途に取り組みます。

(5) 北九州市民カレッジの共同開催

地域連携センターでは、市民の多様なニーズに対応した学習の機会を提供するため、北九州市（生涯学習センター）事業の「高等教育機関提携コース」に参画しています。受講ニーズを踏まえ、本学教員を中心に講座編成を行い、年間 20 講座の提供を目指します。

(6) 北九州市年長者大学校穴生学舎シニアカレッジの共同開催

北九州市社会福祉協議会穴生学舎からの依頼に基づく本学地域連携センターとの共催事業としてシニアカレッジを実施します。

本事業は、年長者のニーズに対応した生涯学習の拠点として、その社会参加の促進を目的とした研修事業です。受講ニーズを踏まえて講座のテーマを設定し、本学教員を中心としたプログラム編成による取り組みで実施回数 10 回を目途に開講します。

⑺ 九州国際大学「地域連携センター市民講座」の開催

地域連携センターでは、本学の人的資源と知的資産を活用し、地域課題解決も視野にいれたオリジナル講座（2 講座以上）の提供を目指します。市民講座・市民相談と共に寄附講座としての位置付けに取り組み、寄附講座（3 講座以上）の提供に努め地域に貢献していきます。

⑻ 学生ボランティア活動支援

学生自治会及びボランティア活動に取り組む学生等を中心として、地域のボランティア活動を推進し、キャンパス周辺の地域清掃活動や地元前田地区非行防止・防犯パトロール等の社会貢献を通じたボランティア精神の涵養を図っていきます。

また、地域連携センターにおいては、地域からのボランティア要請に応えるよう、本学における地域連携学生ボランティア活動の窓口として機能強化を図ります。

⑼ 地域行事への参画

本学が位置する地元地域では、「さくら祭り(4 月)」、「七夕の夕べ(7 月)」、「前田祇園山笠巡行・競演会(7 月)」、「夕涼み会(8 月)」、「ふれあいもちつき大会(12 月)」、「まつり起業祭八幡（11 月）」などの祭事がとりおこなわれています。地域に開かれた大学として、教職員及び学生がこれら行事へ参画し、地元地域との交流を深めながら、地域に貢献いたします。

⑽ 産学連携事業

学生の教育・人材育成と活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与するため、地元企業や団体等と連携協定を締結し、地域貢献・地域活性化に取り組みます。

⑾ 高大連携事業

本学では、文部科学省の教育改革（高大接続改革等）や地域課題（三大都市圏への人口流出等）の背景を受けて、3 つの高大連携（①出張講義、②高大連携、③教育連携）を実施しています。地域の子供たちを地域で育み、地元企業での活躍を期待する好循環への一助となることを意図しています。

① 出張講義

高等学校からの依頼により本学の教員が高等学校へ出向き、高校生に関心の高いテーマでわかりやすく講義を行います。これは高校生の「知りたい」、「学びたい」という気持ちを育てることを目的としています。

② 高大連携（広域連携）

高等学校から要望された教育テーマに基づいて、本学独自の大学体験プログラムや出張講義を定期的に行い、高等学校と大学による共同で連携教育を行うものです。現在、9 校と連携協定を締結しており、本学の活動に賛同くださる学校との教育連携事業等を展開してまいります。

連　携　校		
柳川高等学校	博多高等学校	下関国際高等学校
慶成高等学校	高稜高等学校	開新高等学校
秀岳館高等学校	対馬高等学校	別府溝部学園高等学校

③ 教育連携（地域連携）

北九州市内の高等学校と教育連携を図ることで、地元企業で活躍する人材を地域という枠組みで育成しております。地元の人口滞留を図るとともに地域の活性化を狙いとした取り組みとして、現在 10 校と高大教育連携協定を締結しており、地元北九州の活性化を目指し、教育連携事業等を展開しております。

連　携　校		
八幡中央高等学校	若松高等学校	北九州市立高等学校
北九州高等学校	小倉西高等学校	中間高等学校
小倉南高等学校	ひびき高等学校	門司大翔館高等学校
八幡南高等学校		

8. 国際交流

国際的視野を持った人材を養成するため、アジア地域を中心とした諸大学との国際交流を推進しています。海外の諸大学（中国・韓国・台湾・インドネシア）と交流協定を締結し、専攻分野における研究交流や交換留学などを展開しています。

また、英語圏の大学との交流を推進するため、シリマン大学（フィリピン）・カルガリー大学（カナダ）・オールドドミニオン大学（アメリカ）、スインバーン工科大学（オーストラリア）と学術交流に関する覚書を締結しており、短期の海外実習生として学生を派遣いたします。

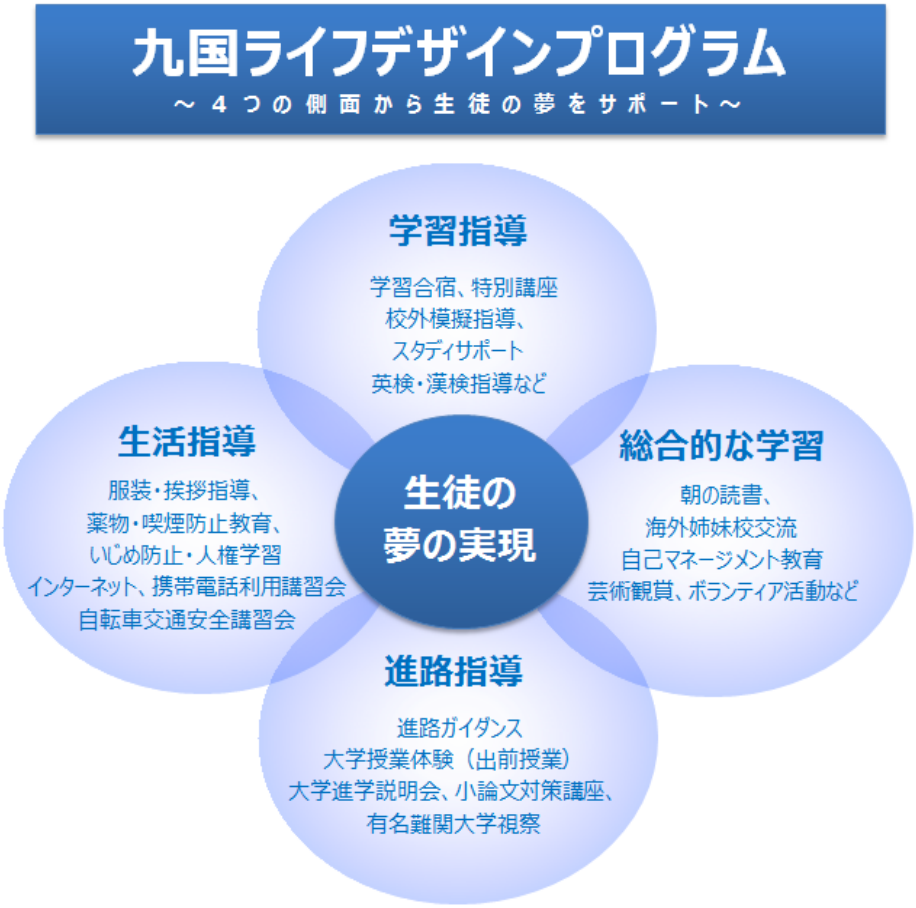
協定校からの交換留学生については、学生や教職員との交流を行うことで少しでも早く日本の生活に馴染んでもらえるように、来日直後にウエルカムパーティー（年２回）を開催します。

（主な国際交流事業）
- **交換留学制度** ：協定校（中国・韓国・台湾・インドネシア）への留学（半年又は１年間）
- **認定留学制度** ：海外の大学に留学（半年又は１年間）
- **海外社会実習** ：主にアジアの国を訪問先とするスタディツアー
- **海外語学実習** ：長期休暇を利用した語学留学（カナダ・フィリピン・アメリカ・イギリス・台湾・韓国）

[九州国際大学付属高等学校]

1. 教育概要

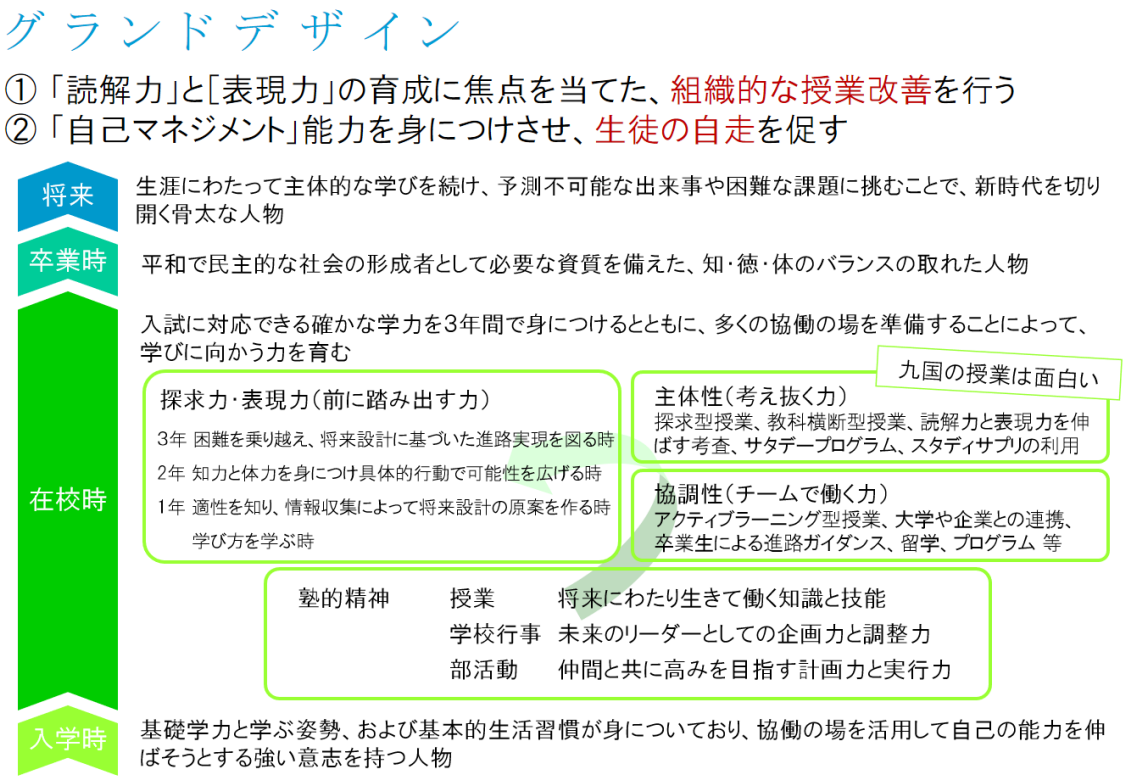
県内トップの受験者数を集める付属高等学校。今まで受け継がれてきた伝統と、北九州屈指の進学・スポーツ実績をもつ学校としての誇りを胸に、より質の高い教育を実現します。“九国付”が掲げるコンセプトは、「知・徳・体」のバランスがとれた人材の育成です。「真の学力伸長は人間的成長なくしてはありえない」という今までの教育実践の中で培われてきた経験から、進学校としての実績に軸足をおきつつも、決して受験勉強一辺倒ではない全人教育を実践しています。高校で過ごす3年間は、将来の基盤となる大事な時期です。学力向上はもちろん、心身ともに健全で社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成に努めてまいります。



「現役合格」を実現する、充実のカリキュラム

1・2年生の間は、難関クラスから進学クラスまで共通のカリキュラムで授業が実施されます。そのため、進級時のクラス入れ替えもスムーズに行えます。問題集やプリント類による演習量や進度は、クラスによって違います。正課授業だけでも、公立高校より多い週35単位を確保。また、より多くの学校設定科目（演習）の導入により、大学入試問題に対応した授業を展開。充実の学習計画で、志望大学への「現役合格」へ導きます。

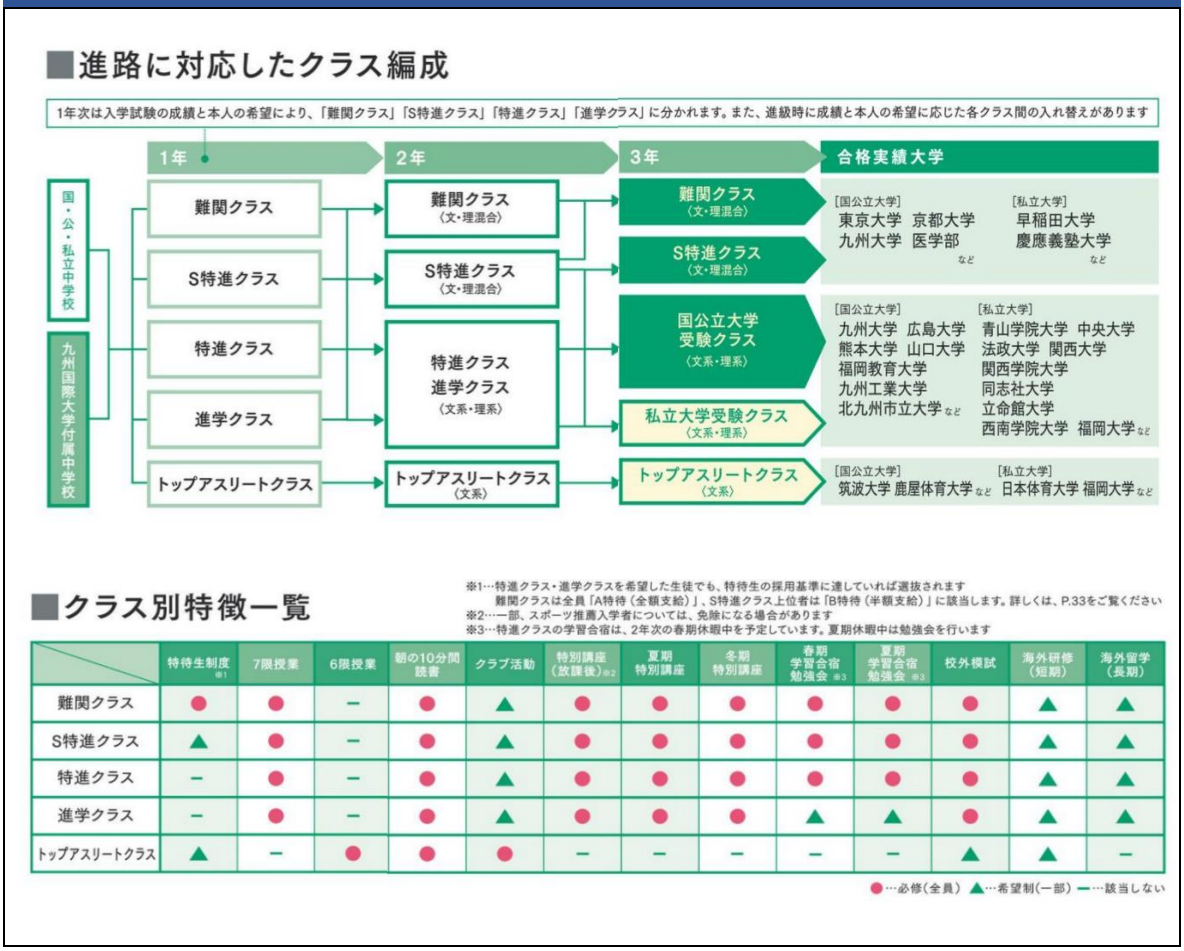
このような長期的な教育概要を踏まえつつ、同時に次のようなグランドデザインを設定して、より時代の変化に見合った教育を進めます。中期的な目標は、大学入試改革を視野に入れた「読解力・表現力」の育成と「自己マネジメント能力」を身に着けるための取り組みです。与えられた課題をこなすだけの指示待ちではなく、自ら考えて計画し行動する人材の育成。私たちはそれを「自走する生徒」と表現します。そのような生徒を育成するためには、従来型の講義形式だけの一方通行型授業でなく、様々な双方向型授業形態を模索しつつ、主体性や協調性を身に着ける組織的な授業改善を目指します。



2. クラス編成

クラス	概　要
難関クラス	少数精鋭でハイレベルな授業を実践する難関クラス。東京大学、京都大学、九州大学や医歯薬系の難関大学への現役合格を目指し、高度かつ綿密な指導を行います。社会常識やマナーも身につけ、確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。クラブ活動への参加も可能です。
S 特進クラス	S 特進クラスは、九国付の最上位である難関クラスと常に良い競争意識をもち合っています。同じ校内に互いを高め合えるライバルがいるからこそ、緊張感をもった学習を継続することができます。S 特進クラスと難関クラスは九国付のツートップです。
特進クラス	国公立大学への進学を目標に、現役合格を目指す特進クラス。 2 年次からは徹底したコース別教育を取り入れ、生徒一人ひとりの能力を高める指導を実践します。毎年、国公立大学に多数の合格実績をあげる原動力になっています。
進学クラス	有名私立大学を初めとする大学進学を中心に、適性に応じて幅広い進路へと導く進学クラス。マナー教育やクラブ活動・ボランティア活動も積極的に推進。個性と才能を伸ばし、更なる成長を促します。
トップアスリートクラス	推薦試験で入学する生徒を対象に 2 クラスで構成。全国的なスポーツ実績を誇るクラブ活動の充実を図るとともに、他クラスと同様に大学進学を目指した授業を行います。スポーツと勉学の両方で頑張りたいと考える生徒たちを精一杯バックアップします。

個性を大切にしたクラス編成



	特待生制度※1	7限授業	6限授業	朝の10分間読書	クラブ活動	特別講座（放課後）※2	夏期特別講座	冬期特別講座	春期学習合宿勉強会※3	夏期学習合宿勉強会※3	校外模試	海外研修（短期）	海外留学（長期）
難関クラス	●	●	ー	●	▲	●	●	●	●	●	●	▲	▲
S特進クラス	▲	●	ー	●	▲	●	●	●	●	●	●	▲	▲
特進クラス	ー	●	ー	●	▲	●	●	●	●	●	●	▲	▲
進学クラス	ー	●	ー	●	▲	●	●	●	▲	▲	●	▲	▲
トップアスリートクラス	▲	ー	●	●	●	ー	ー	ー	ー	ー	▲	▲	ー

3. 進路サポート体制

(1) 大学入試改革・新テスト対策と ICT 教育

本校では 2020 年度から実施された大学入試改革に対応すべく、様々な対策を進めています。各教科担当教員は数年前から説明会や各種セミナーへの参加を積極的に積み重ね、ディベート授業やアクティブ・ラーニングの実践を繰り返してきました。

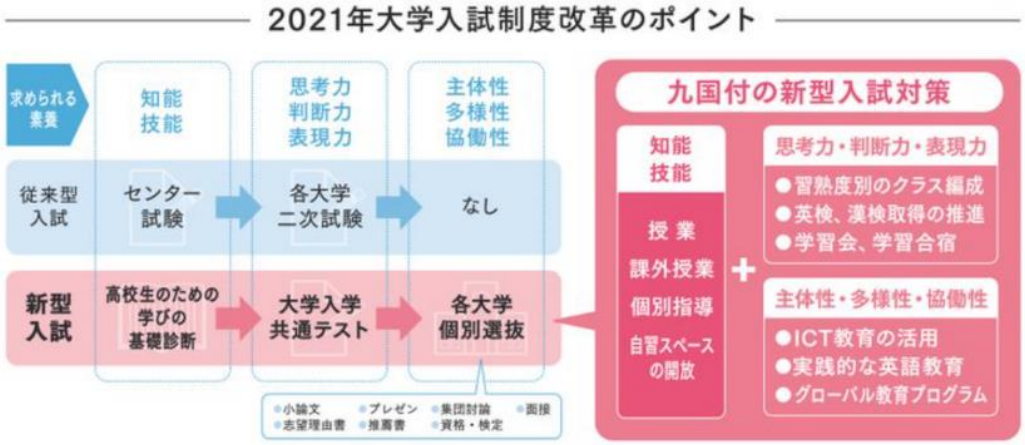
また、英検等の各種資格試験への対応も個別指導の充実を図りつつ、その合格実績を高めています。加えて校内全教室に Wi-Fi を完備し黒板投影型プロジェクターを設置、さらには、新入生全員に個人専用のタブレット型 PC を所持してもらい、動画学習や調べ学習といった協働的な学びに活用します。

(2) ICT 機器を活用した学習・進学サポート

各種 ICT 機器を活用しながら、いち早く「目標」を明確にして学ぶ意欲をかき立てるフォロー体制を確立しており、放課後や長期休暇中の特別講座を実施し、それぞれの生徒の希望進路実現に向けての準備を万全にしています。また悪天候時にはオンライン授業を活用して生徒・教職員の安心・安全を確保しながら、学習をサポートしつつ生徒達の進路実現との両立を果たすための教育体制を整えていきます。

(3)「選択制課外」の導入による新たな視点の入試対策

2021 年度から始まった大学入試改革を視野に入れ「小論文・面接対策」、「資格取得指導」、「大学進学説明会」、「大学特別講義」等を実施することで多様化する大学入試に対応できる体制を整えています。さらには従来の全員必修の課外授業から各自が自分の学習プランに応じて時間割を作成する選択制課外システムを導入し、「自走」する生徒の育成に取り組みます。



(4) ICT 教育改革プロジェクト　（略称 ICTEIP=ICT Education Innovation Project）

本校における ICT 教育は日々前進しており、着実に効果が出ているものと考えられるものの、まだまだ全校的に安定した ICT 教育が行われていると言うことはできず、教員が ICT 機器を積極的に活用し、研鑽を積むと共に生徒のタブレット PC の利用率が上がるような工夫が不可欠な状況です。また公立中学においても、デジタル教科書の導入を視野に入れた授業展開が進行中であり、すでに生徒へのタブレット等の配備が一般的となっている状況があります。

このような教育環境の変化に対応するために、本校では「ICT 教育改革プロジェクト」を立ち上げています。このメンバーで、教員に対する情報活用能力の育成、教科などの指導における ICT の活用、校務情報化の推進、教員の ICT 活用指導力の向上等の環境整備を目指します。

授業以外でも実践されるICT教育

本校では教科教育だけでなく、学校行事や生徒会活動でもSurfaceを活用したICT教育を実践しています。
Formsによる学期末（年2回）の授業アンケートやClassiによる「ICTを活用した教育について」アンケートを実施（年3回）し、分析を行い教育に反映させています。また体育祭や文化祭、生徒総会や生徒会役員選挙でもTeamsを活用して生徒が中心となって運営します。

(5) サタデープログラムと放課後・休暇中の学習フォロー

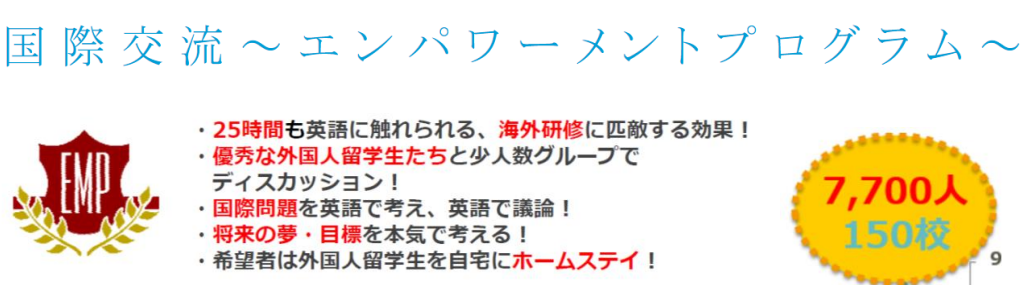
生徒一人ひとりの学習計画を踏まえて、休み時間や放課後の質問対応、自習教室の設置、夏休み、冬休みなどの学習を支援します。また、土曜日を利用したサタデープログラムは、受験対策ばかりではなく、学びを通して生徒の目を輝かせたいという思いから、本校の教員が自身の専門分野や教材研究の成果を生徒達に向けて発表する場を設けています。まるで大学の講義さながら、教科書の範囲を超えて、各学部への興味関心や学問の面白さを肌で感じられる魅力的な企画となっています。

(6) 関東・関西の難関大学視察

生徒が目標とする進路を実現するため、学力向上への取り組みの一環として、1 年次に関東・関西地域の名門大学視察を行っています。本校卒業生の先輩達に当該大学のキャンパスを案内いただき、実際にハイレベルな大学を自分の目で見ることにより、受験へのモチベーションを高めます。また、各教員の指導力強化意識をも高め難関大学をめざす生徒の学力向上へつなげます。

(7) グローバル教育と留学制度

本校では、グローバル時代に合わせて**“世界を知り異文化を学ぶ”**ため、英会話の授業に加えて、姉妹校・友好校との国際交流や海外留学・研修に挑戦する機会を設けています。また希望者を対象とした「エンパワーメントプログラム」を導入し、夏休み中に外国人講師を招き、5 日間の英語集中講座を実施しています。この企画は海外留学が実施できないコロナ禍において益々ニーズが高まり、費用を抑え、留学さながらの体験ができる企画として参加者を集めています。

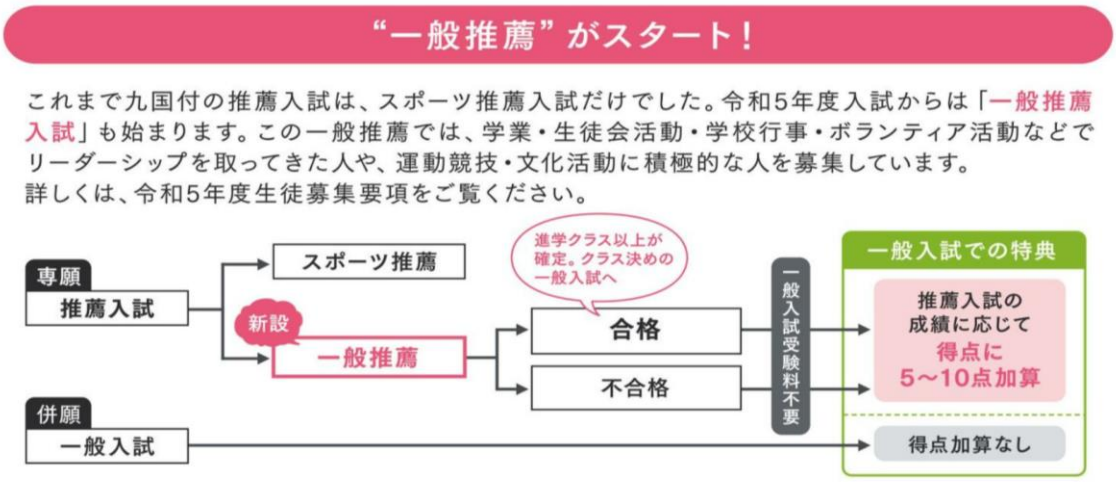


(8)スクールデザインプロジェクト：School Design Project（SDP）

近年の教育現場では様々な状況の変化がまるで大きな波のように次々と押し寄せ、多種多様の対応を迫られる状況が続いています。そのような中で、各部署の縦割り主義を横断するような観点から、早急に取り組むべき優先課題を見つけ出し、具体的な実現プランを策定する若手教員のグループを招集しました。そのメンバーは、スクールデザインプロジェクト：School Design Project（SDP）として活動し、いわば運営委員会のサブ組織的存在で学校改革の牽引役として様々な提案をしています。このように一部の管理職・役職者だけではない、現場の若手教員からの生の声を潰すことなく反映させていく仕組み作りによって、より活気ある職場の雰囲気を醸成してまいります。

(9)生徒募集の新規プロジェクト【推薦入試】スタート

近年、近隣の私立高校はもちろん県立高校でも推薦入試制度が広がりを見せています。そのため受験生や保護者の意識も変化し、受験生の動向も旧来の状況とは大きく変わりつつあります。令和５年度入試から導入した一般推薦入試の振り返り及び分析等を実施し、令和６年度入試に向け、時代の変化に機敏に対応してまいります。



[九州国際大学付属中学校]

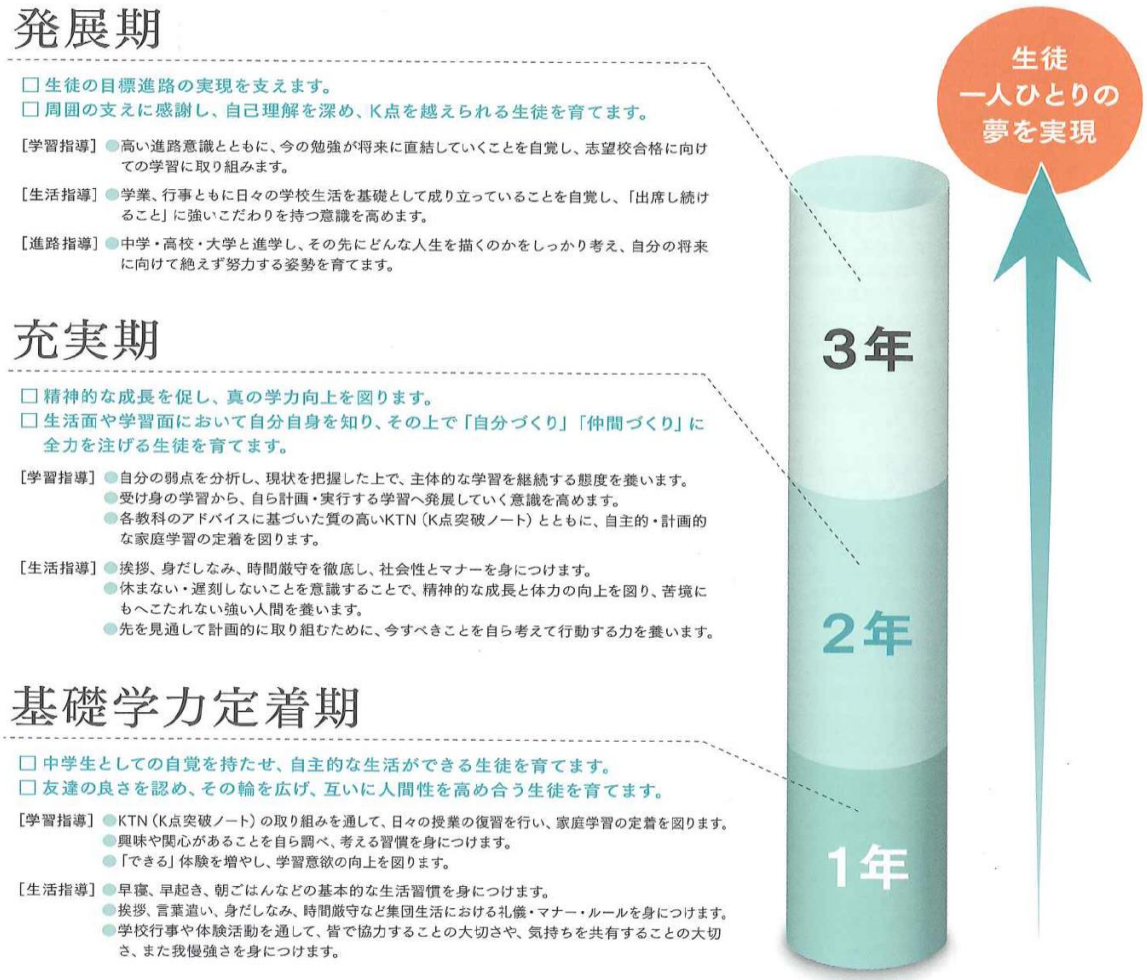
1. 教育概要

中学校では、「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成」、「個性や能力に基づいた希望進路の実現」を教育目標としています。

教育活動全体を通して良き市民たるに相応しい社会性を育てるとともに、体験型の学習を通して個性豊かな人間性の涵養に努め、基礎的な学力を習得させるとともに、思考力・判断力・表現力・発表力を含めた確かな学力を培いながら、進むべき道を自ら自由に選択・決定することを教育方針として、学校教育の充実に努めてまいります。

目指す生徒像として「志を高く持ち、意欲をもって学習に取り組む生徒」、「優しさと思いやりの心をもって積極的に行動する生徒」、「自らに厳しく、責任感を持って、たくましく活動する生徒」を掲げ、成長段階に応じた自立を促し感性豊かな「人間力」を育てます。

また、「K点突破！」を合言葉に掲げ、自分の心の中に限界点を決めず、失敗を恐れず何事にも思い切って挑戦し続けることができるような教育課程を編成し、生徒一人ひとりの夢の実現を目指します。



2. 教科目標

科目	目　標
国語	「言葉」に親しみ、「言葉」を身に付け、「言葉」によって豊かな知性や感性、人間性を育みます。また、文章で表現したり、論述したりすることに対して積極的な姿勢を養い、文章読解力を養成します。
数学	数学的な見方や考え方を育て、数学を学ぶ楽しさ・社会的有用性を感じることができる授業を展開します。また、授業の中での活動やドリル学習などを通して、原理や法則の理解を深めるとともに、基礎的な技能を習得したり発展的な思考力を伸長したりします。
社会	地理・歴史・公民の学習をと曽ひて、現代社会における様々な出来事を自ら考え分析する力、社会を構造的に理解できる力を養います。また、演習の場面を多く設けることで、基本的な知識の定着や応用力の伸長を目指します。
理科	自然に対する興味を持たせるとともに、目的意識をもって実験・観察を行うことで、探究的に調べる能力と態度を育てます。また、グラフやレポート作成、論述などの場面を取り入れながら、科学的な思考力や処理能力、論述力を育てます。
英語	英語学習を通して 4 技能（読む、書く、聞く、話す）を向上させるとともに、自分の意見を正確に伝えたり、相手の考えや気持ちを理解したりするようなコミュニケーション能力を育みます。また、グローバルな視点から、異文化を理解し尊重する態度を養うとともに、自国の文化を理解し次世代に継承していこうとする精神を育みます。
音楽	幅広く音楽を演奏したり鑑賞したりすることにより、曲の構成や表現方法を感じ取ることができる力の向上を目指します。また、音楽祭に向けた合唱の練習を通して、曲のイメージや各音部の役割を理解する力や、協調して演奏する力や態度を養います。
美術	創り出す喜びを味わい、美術を愛好する心を育てるとともに、豊かな感性や情操を養います。さらに、表現や鑑賞の幅広い活動を、学校行事や生活全般に広げていくことを目指します。
保健体育	心と体には密接な関係があることを学び、心身を磨き鍛えることによって、協力・共感・公平・校正・克己心・集中力など、何事にも耐えうる心と体を育てます。また、健康の保持・増進を目指すとともに、生涯にわたって運動に親しむ資質を養います。
技術・家庭	情報機器の使い方や情報モラルを含め、情報に関する技術が現代社会に果たす役割と影響について学び、それらを適切に評価・活用する能力や態度を養います。 自立に必要な衣食住や、家庭の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けます」。また、実習を通して、手作りの温かさや大切さを体感し、豊かな生活を営むことができる実践力を育みます。
道徳	道徳の時間や教科・特別活動など全ての全ての教育活動を通して、人間としてよりよく生きることの実現を目指します。生徒と共に考え、探求しながら、道徳的価値に基づく人間としても生き方・豊かな心・道徳的実践力などを育てます。
総合的な学習の時間	様々な体験学習をより効果的なものにするために、事前の調べ学習や事後のレポート作成などにも取り組みます。各種発表会のための準備、教育相談や校長面談に向けての自己分析・エントリーシートの作成などにも取り組みます。 机の上の学習だけでは得られない実体験を通して、創造力・思考力・表現力を育みながら、「未見の我」の発見に努めます。

3. 教育設計

将来をたくましく生き抜き、リーダーとして新たな社会の構築に資する人材を「未来を創る人。」と位置付け、その育成を目指して、「盤石の学習体制」「豊富な体験学習」「自立した生活習慣づくり」の３つの柱で学校生活を充実させるとともに、世の中の変化やニーズに真摯に応え、個性を育みながら、確かな学力を形成し、より高い進路の実現を目指します。

(1) 盤石の学習体制

① 高校自由選択制

中学生にとっては「高校入試」は大切な節目であり、義務教育の学習を総まとめする絶好の機会です。高校進学にあたってどの学校を選択するかは、本人と保護者が決定し、入試に立ち向かわせる方針を取ります。併設校である付属高校への進学は、付属高校を受験すれば原則として保証されますが、よりハイレベルクラスへの合格を目指す高い意識で受験できるよう支援します。

② 高校入試で学力形成

これからを生きる子どもたちには、「レベルの高い知識や技能」、「知識や技能を生かした思考力・判断力・表現力」、「知的関心や意欲・学ぶ姿勢」が求められます。子どもたちの将来を考えると、これらの基礎となる力を、中学生のときにしっかり身に付けておくことが大切と考えます。

本校では、高校入試を、学力を形成する絶好の機会と考え、付属高校や公立高校の入試問題に取り組みながら「知識や技能」「思考力・判断力・表現力」を育てていきます。

③ 柔軟できめの細かい授業体制

本校では１つの学年の教科指導を、複数の教員で担当します。また、３年生については、いずれかのクラスの授業を必ず担当することで、毎年、全ての教員が受験生を指導していきます。

複数で授業を担当するために教科会議を充実させ、指導内容・指導方法の検討、入試問題の分析、個々の生徒についての情報共有等をしながら、組織的・協働的に、受験指導・教科指導・学習指導に取り組みます。

また、英語や数学においては、１年次から「求むクラス」「究むクラス」を設けて学習体制を複線化したり、３年次後半になると全教科で特別編成授業クラスを設けたり、放課後講座を実施したりするなど、生徒の実態や状況にあわせた授業や時間割を柔軟に編成していきます。

④ 創意工夫を凝らしたテストの実施

テストは、能力を測定するだけではなく、身に付けておきたい学力を具体的な形で示す大事なツールでもあります。本校では、従来の定期考査や実力テストに加え、基本的な知識や技能の定着を図る「パーフェクト・トライ」、発展的な思考力や柔軟な創造力、確実な表現力を必要とする「アクティブ・トライ」、現在の自分の学習状況に応じて取り組む「朝活・小テスト」、受験のまとめの時期に総合的な学力の伸長を図る「プレップ・テスト」など、さまざま

な形のテストを実施することで、生徒の学力を伸ばしていきます。

⑤ 教科特性を生かした学びや活動

年間を通して、詩集や学校誌の制作、学習レポートや授業作品の展示、「百人一首大会」や「英語プレゼンテーションコンテスト」等の学習行事の開催など、各教科の特性に応じた学びの場を設けていきます。また、様々な自然現象に関心を持ち、自分でじかに触れることできるように、理科の実験の場面をより多く設けていきます。

⑥ 三冠王+準2トリプルクリア

英検等の検定は履歴書等に記載できる資格にとどまらず、どの程度まで学習できているかを示すバロメーターにもなります。英検・漢検・数検３つの検定を学習の柱に据え、生徒全員が、３つの検定全てで中学卒業レベルに相当する３級に合格することを目指します（三冠王)。また、複数の検定で高校課程の能力を要する準２級や２級以上の合格を目指す「準２トリプルクリア」への挑戦も支援します。

⑦ 学術コンテストや文芸作品コンクールへの参加

「科学の甲子園ジュニア」や「英語弁論大会」など校外で開催されるコンテストや、自由研究や作文等の様々な作品コンクール等に積極的に参加できる体制を設け、参加者を支援していきます。

⑵ 豊富な体験学習

①「未来を創る人へ。」プロジェクト

従来取り組んできた学習活動を整理して、「自分もみんなも幸せに過ごせる世界の実現」に向け自分で考え・行動できるように育てる取組みを、「『未来を創る人へ。』プロジェクト」として展開します。

１年次は「世の中に触れよう、世の中について考えよう」をテーマに、家族と一緒に考えたことを作文にまとめ発表したり、地域の企業や商店等の経営に携わる方からお話を聞いたりする（社長さんに聞こう）ことを通して、今の世の中の様子を学びます。

２年次は「将来をどのように生きるかを描いてみよう」をテーマに、将来の世の中を自分なりにどのように生きるかを作文にまとめ発表したり、実際に行政に携わっている方からお話を聞いたりする（市役所訪問）ことを通して、世の中が抱える課題や問題点、それらに対する取組みの様子などを学びます。

３年次は「世の中のために自分は何ができるかを表してみよう」をテーマに、国際社会の一員として自分の意見や取り組みたいことを英文にまとめ発表したり、外国で暮らす人々と出会い、文化や習慣の違いを肌で感じたりしながら（海外体験教室)、世界の中で生きる一人の人間としての目標や道標を築いていくようにします。

② 北九ウォーク・宿泊体験教室

日常とは異なる環境の中で仲間との絆を深めたり、日本や海外の人々の暮らしや歴史・文化を学んだりする場として、全学年参加の「北九ウォーク」や、１年次「九国チャレンジ教

室」、２年次「古都探訪教室」、３年次「海外体験教室」の「宿泊体験教室」を、それぞれ実施します。

⑶ 自立した生活習慣づくり

① 一年次二人担任制

生徒が「中１ギャップ」を克服し、スムーズに中学校生活に入っていけるよう、１年次に男女２人の担任を置き、生徒をきめ細かく観察し指導をしていきます。生徒にとって、相談など担任と気軽に話ができる環境となる上、教員にとっても、生徒をより多面的に見ることでより的確な指導が可能となり、いじめの起こりにくい環境や、快適に学習に取り組める環境を作っていきます。

② 自主学習への支援体制

日々の学習計画の作成と KTN（家庭学習）の活動を通して、自分が作った学習計画に従って登下校時の所持品を決める「荷物の軽量化」を進めるとともに、実際の学習や生活の様子を記録として残していきながら、生徒が自主的に学習に取り組むことができるように支援していきます。

③ 健康である続けるための体づくり

自分の能力を最大限に発揮するには「健康」であることから、家庭科・保健体育科・保健室が中心となり、食事・運動・生活など健康の基になる営みを科学的に捉え・考え・学ぶことで、生涯健康であり続けるための基礎力を育てていきます。

④ 集団の中での円滑な人間関係の構築

様々な小学校から入学してくる関係上、生徒にとって人間関係を構築することは大きなテーマです。加えて、学齢期の大事な時期に新型コロナの影響を受けた今の生徒たちは、集団での生活に不安を持つ者も少なくありません。

授業・食事・活動など日々の学校生活に加え、クラスマッチ・北九ウォーク・宿泊体験教室などの行事や体験学習を生かしながら、生徒が集団の中で円滑な人間関係が構築できるよう支援していきます。

⑤ 教育相談・校長面談・スクールカウンセリング

青年期前期の中学生は、友人関係、学校や家庭での生活、学習や進路のことなどで悩んだり苦しさを感じたりすることが多くなる年頃です。そこで、年に２回、個々の生徒と学級担任とが向き合ってじっくり話をする場を設けています（教育相談）。また、学校長も、年に１回、全校生徒と対面し、夢や目標などについて語り合う場を設けています（校長面談）。

なかには、家族にも学校の先生にも話をするのを戸惑う生徒もいます。そこで、毎月２回、専門のカウンセラーによる「スクールカウンセリング」を実施し、不安を抱える生徒を支援する体制をつくっています。

(4) ICT 機器の活用

生徒一人一人にタブレット型ＰＣ（iPad）とスタイラスペンを所持させ、上記(1)～(3)の様々な学習場面で活用していきます。これまで手書きしていたノートやメモ、レポートなどを電子化することで、内容をより充実させるとともに、情報の整理を円滑に進めさせていきます。

あわせて、デジタル教科書・デジタル教材、学習課題や提出物、授業・行事等の配信などにも活用し、たくさんの情報をスマートに受け渡しながら学習効果を高めていきます。

(5) 学びの成果の確かめ

「音楽祭」「体育祭」「文化祭（文化発表会）」などの学校行事は、日頃の授業や学校生活で培われた能力を最大限に披露する場です。また、３年次の３学期に行われる「自分発表会」は、進学先の高校が決まった生徒にとって、それまでに身に付けてきた能力と将来の自分を結びつけることができる絶好の場です。さらに、高校入試の成績は、中学校生活で身に付けた学力の程度を測る機会でもあります。これらの様子から、生徒各人の学びの成果を確かめるとともに、学校として取り組んだ教育活動を振り返り、総括していく場としていきます。

(6) 学校広報活動

小学生やその保護者が来校する場として「オープンスクール」「学校見学ツアー（夏・秋・冬）」「九国プレ（入試模擬試験）」を開催し、本校の様子をより詳しく知っていただけるようにします。また、学校の様子を説明するだけでなく、在校生の授業の様子を見たり、実際に iPad を使った授業を体験したりできるようにします。

新たに令和５年度は、小学生の保護者をターゲットに、本校の様子をインスタグラムで紹介していく活動に取り組みます。

Ⅲ. 令和5年度予算概要

令和５年度　学校法人九州国際大学
事業活動収支予算

（単位：百万円）

科目			予算	備考
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,517	
		手数料	71	入学検定料等
		寄付金	0	施設関係寄付金は特別収支に計上
		経常費等補助金	1,008	施設関係補助金は特別収支に計上
		付随事業収入	55	寮、エクステンション講座等の補助活動収入
		雑収入	68	施設設備利用料等
		教育活動収入計	3,719	
	支出	人件費	2,112	
		教育研究経費	1,343	
		管理経費	376	事務管理費、学生募集経費
		徴収不能額等	0	
		教育活動支出計	3,831	
	教育活動収支差額		▲112	
教育活動外収支	収入	教育活動外収入計	5	受取利息・配当金
	支出	教育活動外支出計	0	
	教育活動外収支差額		5	
経常収支差額			▲107	
特別収支	収入	資産売却差額	0	
		施設設備寄付金	20	
		施設設備補助金	7	
		特別収入計	27	
	支出	特別支出計	0	
	特別収支差額		27	
［予備費］			30	
基本金組入前当年度収支差額			▲110	
基本金組入額合計			▲171	
当年度収支差額			▲281	
前年度繰越収支差額			▲ 5,699	
基本金取崩額			0	
翌年度繰越収支差額			▲5,980	

（参考）

事業活動収入計	3,751	
事業活動支出計	3,861	

※1）上記の事業活動収支予算は学校法人会計基準に基づくもので、単年度の収支を３つの区分（教育活動収支・教育活動外収支・特別収支）毎に表示したうえで全体の収支を示したものです。

※2）単位未満を四捨五入しているため、実際の計算書類の合計と一致しません。

［事業計画策定及び予算編成方針の背景］

令和４年６月７日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2022（骨太方針 2022）」において、我が国を取り巻く環境変化と日本経済の現況を背景に、課題の解決に向けた方向性が明示され、社会課題の解決と経済成長を同時に実現しながら、経済社会の構造を変化に対してより強靭で持続可能なものに変革する「新しい資本主義」を起動すると示されています。この新しい資本主義に向けた重点投資の中では「質の高い教育の実現」について言及されており、人への

投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資するため、デジタル化に対応したイノベーション人材の育成等、 大学、高等専門学校、専門学校等の社会の変化への対応を加速し、そのために、教育未来創造会議の第一次提言等に基づき、新たな時代に対応する学びの支援の充実を図るとしています。

また、これら方向性を後押しすべく令和5年度文部科学省予算概算要求において、基盤的経費の充実や客観的指標に基づくメリハリある配分による改革の徹底、国際化の推進等に関する予算要求がなされました。

このような社会動向を踏まえ、本法人が学生生徒・保護者及び地域社会からの信頼を得ていくためには、今まで以上に学生生徒・保護者及び地域社会と真剣に向き合い、本法人の教育理念である『一人ひとりを大きく育てる教育』を実践し、教育の質の保証に向けて持続的・発展的に教育改革を推進していくことが肝要となってきます。加えて、これらを実践するための経営基盤を一層強化していくことが極めて重要であると考えております。

本法人は、令和5年度の事業計画の策定及び予算編成にあたり、先述した社会動向を踏まえ、中期経営計画を基軸として、同計画の進捗状況（現状分析）に基づき今後の課題を把握するとともに、自己点検評価の状況なども踏まえ、これらの課題解決に重点を置いた戦略的な事業計画の策定を求めてまいりました。

[事業活動収支予算概要]

1. 教育活動収支

(1) 教育活動収入

① 学生生徒納付金

設置する学校（大学、付属高等学校、付属中学校）の入学定員確保に努め予算編成しています。同時に、大学では教育の質保証システムを構築し、中退予防等を含む教育支援に取り組むことで収容定員充足率の維持・向上を図ることで安定的な収入を確保します。

② 経常費等補助金

大学部門における私立大学等経常費補助金については、近年、文部科学省の政策誘導型補助に比重を置いた採択型の補助事業が展開されているため、補助金収入を保守的に試算しております。教育の質保証システム構築のためにも、「私立大学等改革総合支援事業（採択制）」など、教育改革の原資となる補助事業の採択に努めます。

高等学校・中学校部門における福岡県私立学校経常費補助金は、一定の在学生数を維持することで安定的な収入を確保します。

③ 付随事業収入

受託研究事業は、自治体・企業・研究機関との連携により、国策・地域政策と合致した実践的研究に参画し、大学のプレゼンスを高めていきます。また、その他の外部資金（学外研究等）を獲得し、これらを活用した研究スタイルを推進することで研究費調達の多様化を図ります。

高等学校生徒寮（橘寮・華橘寮）は、県外から本校に入学し、クラブ活動に力を注ぎながら勉学に励む生徒が多数在寮しています。寮監はもちろん、付属学校の教職員をあげて日常

生活や修学上の支援を実施しており、一定の稼働率を保持します。

⑤ 雑収入

施設設備利用料について、収入の多角化に向けて学校法人の財政基盤の一助となるよう一定の収入確保を予定しています。

(2) 教育活動支出

① 人件費

人員及び人件費の最適化実現と生産性を最大化することを念頭に置き、その上で「前年度賞与支給率の維持」、「非常勤講師経費などの縮減」に努めていきます。

② 教育研究経費及び管理経費

予算編成方針に基づき各部局に予算要求を行い、編成作業を実施してまいりましたが、教育研究経費及び管理経費は前年度予算と比較して増加しています。主な要因は、電気・ガス代の法人向け大規模契約割引特約の終了に伴う大幅な光熱費の上昇によるものです。消費電力等のモニタリングをこれまで以上に意識し、省エネに向けた啓蒙活動をはじめとして各種経費削減に努めてまいります。

2. 教育活動外収支

(1) 事業活動収入

① 受取利息･配当金

近年、金融資産については安全性を考慮して普通預金・定期預金・地方債等により運用していますが、令和 5 年度は一定のリスクを許容したうえで公共性の高い債券購入を検討します。

3. 特別収支

(1) その他の特別収入

① 施設設備寄付金

安全で充実した教育環境と質の高い教育内容を提供するためには、より一層の安定した財政基盤の確保が求められます。本学園のさらなる魅力づくり及び持続的発展のため、大学、高校及び中学の教育研究用施設設備及び環境整備を目的として寄付金募集事業を実施します。

Kyushu International University
学校法人 九州国際大学

発 行 ／ 学校法人 九州国際大学 法人事務局
〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目 5-1
TEL：093-671-8900 / FAX：093-671-9032